

民主島根

2020年
6.7
第1361号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

巡視虚偽報告 不正・不祥事繰り返す中電

島根原発再稼働やめよ

県議団、松江・出雲の各市議ら申し入れ

中国電力島根原発にある低レベル放射性廃棄物の一時的な保管などに使う「サイトバンカ建物」で巡視業務を怠る法令違反が相次いでいた問題で、日本共産党県議団は5月18日、中電島根支社を訪れ、実効ある再発防止策や徹底した情報公開とともに、原発安全神話から決別し、原発ゼロを決断するよう申し入れました。(2面関連)

中電は、2月16日の巡視業務を怠っていたことを同19日に公表。その後の調査で2002年度以降、8人が計32日巡視業務を実施していなかったことが発覚しました。

尾村利成県議は、不正・不祥事を繰り返す根本原因に、①福島原発事故の教訓を真摯に学ばず

②「原発は事故を起こさない」という安全神話に浸かっていることにあると指摘。中電の調査結果は根源的な原因分析ができていないと述べ、「島根原発の稼働は断念すべきだ」と迫りました。

大平喜信前衆院議員と

政府に170項目要請 大平前衆院議員、中国5県の党県委

中国5県の日本共産党県委員会は5月21日、新型コロナウイルス問題で文書による政府要請を行いました。

各県の地方議員はこの間、コロナ禍で苦しむ現場の声をしっかり聞きながら行政に届ける活動に取り組んできました。その中で、自治体や医療関係者などから国への厳し



申し入れる県議団、松江、出雲の各市議ら (中電島根支社)



民青県委 県に迅速な対応を要請
日本民主青年同盟島根県委員会は5月18日、県に対し、新型コロナウイルス

学生・青年労働者守って
ルス感染症の影響から学生や青年労働者を守るための積極的な支援策を迅速に行うよう要請しました。(写真) 日本共産党の尾村利成、大平陽介の両県議、吉井安見出雲市議候補が同席しました。

い批判と要望が出されてきました。今回は、それらをまとめて志位和夫衆院議員を通じて国に要請したもの。厚生労働省、経済産業省、文科省、財務省、総務省、農水省、防衛省、国土交通省、170項目を超過するものとなっています。その内容は「病院の入院患者が昨年対比18%減。地域の医療体制確保のため国の財政措置を「新型コロナウイルスで田植え

黒川弘務前東京高検検事長が新型コロナウイルスの感染拡大で緊急事態宣言が発令されていたにもかかわらず、賭けマージャンを行っていた事実を認め辞任したことを受け、松江市では5月22日、日本共産党の尾村利成県議、岩田剛東部地区委員長が宣伝しました。(写真)



検察庁法改定案 廃案に 松江で尾村県議ら宣伝

尾村県議は不要不急の外出自粛が求められ、国会では黒川氏自身の定年延長が発端となった検察庁法改定案をめぐる緊迫した状況になっていくのにも関わらず、「3密」のマージャンに熱中するのは余りにも非常識だと批判。その上で「辞任で幕引きとはいかない。検察庁法に反する違憲・違法の法解釈で、定年延長の閣議決定を行った安倍政権の責任が問われる」と述べ、「真相究明と野党が結束して検察庁法改定案の廃案を求めていく」と訴えました。

大平氏は「さらに声を高めて一歩一歩前進させたい」と語っています。

イト収入の減少で学費が払えず、学校をやめるという話も聞いている。「バイト先が臨時休業したが、休業補償がない」など切実な声が寄せられていると紹介。学生や事業者に対する相談窓口の設置、県立大学をはじめ県立の教育機関の学費減免制度や県独自の給付型奨学金制度の創設などを求めました。

鼓動 「我が家では 最強スクラム 妻・娘」(1位・50代男性)

「我が家では 最強スクラム 妻・娘」(1位・50代男性)。「パブリカを食べない我が子が 踊っている」(2位・20代女性)。「話し聞け! スマホいじるな!」(3位・40代男性)——第一生命保険が5月28日に発表した「第33回サラリーマン川柳コンクール」の上位3句▼サラリーマンの悲哀や夫婦の悲喜こもごも、日常生活の「コマ」を川柳にしたためた「サラリーマン川柳」を毎年楽しみにしている。その歴史は古く、1987年に一般公募を始め、30年余りにわたって社会を映してきた▼今年は、昨秋までに寄せられた5万3194句から第一生命が選んだ100句を対象に、全国8万6542人が投票して順位を決めた。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う世相の変化は反映されているが、100句の中には「もう来たの? ウーバーイーツと我が夫」(77位)、「居場所なく近所のベンチで テレワーク」(92位)など、今の暮らしに通じる内容も▼第一生命によれば、20、30歳代はSNSにちなんだ作品への投票が多く、40歳代以上ではデジタル化への戸惑いに関する句に人気が集まったという。担当者は「コロナで働き方やコミュニケーションの取り方が変わった。今回はコロナを受けた新しい生活のあり方が詠まれそうだ」と話している▼笑いはナチュラルキラー(NK)細胞を活性化させ、がん細胞や体内に侵入するウイルスに対する抵抗力を高めるといわれている。日常生活で笑いのもとを探しながら免疫システム全体のバランスを整える。(遠)